第三者意見

ＴＨＫグループは、「世にない新しいものを提案し、世に新しい風を吹き込み、豊かな社会作りに貢献する」を経営理念に掲げ、創業以来、LMガイドと称する直線運動案内システムを国内外に供給し、社会の発展に貢献しています。

この度、CSRレポートの第三者意見の執筆を依頼され、「CSRレポート2013」を中心に、過去5年間のレポートならびにホームページを拝見しました。工業会の産業機械戦略調査委員会主査や大学の研究戦略室研究企画官を務めた際に、国内外のCSRレポートを分析した経験から、ＴＨＫ社のCSRレポートは幅広いステークホルダーを読者として想定されているという印象を受けました。

本文では、企業理念に基づく事業活動を「マネジメント体制」、「社会との関わり」、ならびに「環境との調和」の3大項目に整理されています。まず、本CSR活動について評価すべき点を挙げさせて頂きます。

第1に「共存共栄を目指した企業文化」がグループ内に根付いており、個々の取り組みに反映されています。それがグループの国際競争力の源泉であり、「グローバル展開」を戦略軸とした4極製販一体体制を成功に導いた駆動力であることは間違いありません。

第2に「世にない新しいものを提案する」という経営理念の下で新製品開発に取り組み、「新規分野への展開」を戦略軸としたビジネス展開に成功されています。特集の「未来を創造する技術」や「暮らしを守る技術」は成功例と言えます。

第3にリスクマネジメントを重要課題と位置づけ、事業継続計画（BCP）の策定に早期に着手し、既に体制を構築されています。社会に対する製品の供給責任を果たすものとして高く評価したいと考えます。

第4に「環境との調和」を目的とした環境経営を実践すると共に、取組みの成果を定量的データで検証されています。2010年に山口工場を訪問した際に、創出する製品自体が省資源・省エネルギーであるだけではなく、製造工程全般を環境に配慮している様子を確認しました。環境保全に対する高い責任意識を称賛したいと考えます。

一方、第三者意見者の役割として、今後の課題についても触れさせて頂きます。一般にCSR活動の各段階は、PDCAサイクルとして体系化されます。本レポートではコーポレートガバナンス、コンプライアンスを含む様々な活動に濃淡はあるものの、個々の目標に対する体制や制度の策定（Plan）、実際の体制構築や運用状況（Do）が記述されています。しかし、運用に対する評価（Check）や改善のための課題や対策（Action）については陽に記述されていません。ステークホルダーが目標達成のための戦略、戦術、効果を理解する上で有用と考えますので明示されることを期待します。

最後に、今後もＴＨＫグループが一丸となって、革新的な製品群を創出すると共にそれらをタイムリーに市場に投入し、「豊かな社会作りに貢献する」という経営理念の下で発展されることを私は祈念しています。

国立大学法人　東京工業大学　精密工学研究所　副所長　教授・工学博士　新野 秀憲 様

略歴：1979年東京工業大学工学部生産機械工学科卒業、1984年東京工業大学大学院理工学研究科生産機械工学専攻博士課程修了、同年通商産業省工業技術院機械技術研究所機械部工作機械課研究職、1987年東京工業大学工学部助手、1989年東京工業大学工学部生産機械工学科助教授、1997年東京工業大学精密工学研究所精機デバイス部門超微細加工研究分野助教授、1999年東京工業大学精密工学研究所精機デバイス部門超微細加工研究分野教授、同年東京工業大学大学院総合理工学研究科メカノマイクロ工学専攻教授、2001年～2003年東京工業大学研究戦略室・研究企画官、2001年～2004年独立行政法人産業技術総合研究所・主任研究員、2004年～2005年および2009年～2010年同大学メカノマイクロ工学専攻専攻長、2012年東京工業大学精密工学研究所副所長、現在に至る。

研究分野：超精密加工機および超精密測定機の研究開発、工作機械の構造設計方法論、超精密加工学、工作機械工学の研究に従事している。

学協会役員：日本学術会議連携会員、国際生産科学アカデミー（CIRP）フェロー、日本機械学会フェロー、日本工作機械工業会国際工作機械技術者会議（IMEC）運営委員長、日本機械学会RC257革新的工作機械技術に関する研究分科会主査、Journal of Engineering Design（UK） Editorial Board Member、FA財団理事等を務めている。

過去の学協会における役員：これまでに日本機械学会生産加工・工作機械部門長、日本機械学会理事・評議員、日本工作機械工業会欧州機械産業戦略策定委員会委員長等を歴任している。